様式第１号

山田谷中央営農組合「集落営農ビジョン」

作成日　平成27年3月10日

修正日

市町村名	南部町	組織名	山田谷中央営農組合

1　地区の範囲

鳥取県西伯郡南部町　徳長、武信、道河内地区

2　地区の概要

水田面積	25.46 ha	主な水田栽培作物	水稲・飼料用米・そば	農家数	41 戸
認定農業者数	2 経営体	人農地プランの中心となる経営体数		1	経営体

3　組織化及び集積率（経営、機械の共同利用及び作業受託）の目標

【項目】			【現状】		【目標】　平成２７年度	
組織の概要	設立時期（規約等の制定日）		平成21年4月4日		平成　年　月　日	
	組織形態（該当形態に○を記入）		・未組織　・共同利用型 ・作業受託型　・協業経営型		・共同利用型　・作業受託型 ・協業経営型	
	構成農家数		25	戸	30	戸
農地の集積	集積面積	A	16.46	ha	17.48	ha
	対象水田面積	B	22.15	ha	23.12	ha
	集積率	A／B	74.29	%	75.61	%
世代交代への取組						
新規就農者の活動参画						

注１）目標は、事業実施最終年度とする。
２）設立時期の目標欄は、ビジョン作成時に組織が設立されていないときのみ記載すること。
３）集積面積の詳細は、別表「集積目標（実績）一覧」により記載
４）集積率の目標は、50%超が採択要件
５）集積率の目標は、原則として現状よりも高い数値を設定すること。
６）集積率の目標値を現状より高い数値に設定することが困難な場合、構成農家数の増、世代交代への取組、新規就農者の活動参画のいずれかでも可。ただし、世代交代への取組又は新規就農者の活動参画の欄に現状及び目標を記載すること。

Ⅰ.集落営農に対する基本方針

【集落営農の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

1　担い手の明確化及び水田利用集積目標

〈現状及び課題〉
本地区は水田農業が主であるが、一農家当たりの農地所有面積は、0.7haと経営規模が小さい農家が多数を占める。また全体で25.5haの水田を数人の担い手に集約することも中山間地域の耕作条件が不利な水田が多いことから、なかなか困難な状況にあります。また、地域農業者の高齢化に伴い農地管理の相談案件が年々増加しています。
さらに本地区は、農業用水利としては脆弱な水量の少ない河川、堤及び山からの自然流下水に依存しており、用水が不足する事案が度々発生し、耕作を諦めなければならない圃場も出ています。
〈課題を解決するための対応方針〉
・現在集落の過半の面積を受託していますが、新型のコンバイン、トラクター、畦塗機導入により作業効率が向上することから、さらなる農地の集約を目指していきます。
・上記により集落内農地の健全な維持と重労働の軽減、農業生産コストの低減を図ります。
（※コンバイン、トラクターについては、平成２４年度次世代につなぐ地域農業バックアップ事業で整備済）
・恒常的に不足している水資源を有効活用するため、集積した圃場のブロック分けを行い、水稲作付品種毎に集積を行うことにより、用水の有効活用を図るとともに、畦畔からの漏水対策のため畦塗機を導入し、年次的にローテーションを行い畦畔の適切な管理を行います。
・当集落営農組合は、将来的に農業法人への移行を目指し、地域の中心的な担い手として地域農業の維持発展を目指しておりますが、地区内と隣集落の農地を合算しても約26ヘクタールの農地しかありません。個人の認定農業者や後継者の確保が確実な農家の農地を除して勘案すると経営規模を拡大しても20ヘクタール弱が限度であり、高収益作物の作付等を検討しても法人移行後の経営状況は楽観視できるものではありません。これらを少数で組織運営をするにあたって集積農地の適切な維持・管理については、機械化は不可欠なものと考えます。
・当地区では５０，６０代の定年退職者を集落営農の担い手と位置づけ、農業機械のオペレーターや農業施設の点検管理、他農家の支援などの役割を担ってもらい、この仕組みを順次、次世代に継承していきます。
・農地所有者が管理不能に陥った農地が発生した場合には、担い手を中心に耕作を継続することについては、従来から取り組んでいるところであり、今後とも継続していきます。
・農地所有者についても無償での貸付ではなく、少しでも収入として賃借料を払える体制を整備するため、農業コストの低減を図って参ります。
・以上のような取り組みを、集落の営農組合が長期にわたり総合的に継続することにより、集落の農地、農業を持続していきます。

2　水田作付計画、生産調整の方針・具体策

【水田作付計画】

〈現状及び課題〉

・水稲作付を用水系統ごとに早生、中生、晩生の品種に割り振ることを行なっているが、狭隘な山間地圃場を分散して有する農家の多い当該地区では、同一品種にならざるを得ない圃場が多い。

〈課題を解決するための対応方針〉

・農作業のうち、特にコンバインは作業期間が集中する。このため刈り取り期を分散するため地区内の水稲作付を用水系統ごとに熟期の異なる品種に効率的に割り振ることを更に推めていく。具体的にはひとめぼれ・コシヒカリ・ヒカリ新世紀・きぬむすめ・飼料用米の日本晴を計画し現在一部の水系で実施しているが、２４年度から生産調整を考慮しながら取り組みを進めている。

【生産調整】

〈現状及び課題〉

・地区内の活用できる水田22.2haの内、転作実施している11.9haの内容は、主なものはブロックローテーションによる飼料米、そばが主であるがそのほかに山間地域の谷部の実情に応じて自家用野菜、保全管理を実施している。
・以前は、ブロックローテーションによる大豆の作付を行っていたが、湿田が多く収穫できない年もたびたびあった。このため現在は飼料用米の作付を行っている。今後も生産調整水田では、飼料用米作付で対応する。
・生産調整は、割り当て面積をクリアしている。
〈課題を解決するための対応方針〉

・生産調整については、地区内で十分理解されており今後も割り当て面積は十分にクリアできる。
・今後定年帰農者が増えることにより、ビニールハウス、露地栽培による付加価値の高い農地の高度利用も計画している。

3 農業用機械・施設の効率利用

【現状と課題】

本地域は、作付期に水量の少ない河川やため池、自然流下水に強く依存しており、水資源の効率的な活用について地域内で検討・調整していくべき課題でありますが、畔を含めた畦畔の管理については高齢化等に伴い十分な整備が行われていない状況にあります。
そのため、必要な時期に圃場によっては十分な水が確保できないことや、水切りが必要な時期に隣の圃場から水が流入するなど適切な管理が行えない状況も散見されます。
更に、畦塗り作業は、機械化、効率化が進んでいなく、春には畦切り・泥上げ、畦シート張り土寄せ等、秋には畔シートを片付ける等人手が必要で且つ重労働の一つになっていますが集落営農としては対応出来ていないのが現状であります。

【課題を解決するための対応方針】

現在、当該地区では営農組合未加入農家の農地がモザイク模様になっていますが、営農組合加入希望者が増えてきています。今回新機種導入を計画しこれを機会に、刈り取り、畦付け、耕起、代掻の対象範囲を、組合員から集落全体に拡大し、地区内の農作業を共同機械により、一元的かつ効率的に行うことで集落の農業生産コストの軽減を図り、農業、農地を今後とも維持していける集落づくりを目指します。

【具体的な取り組み】

十分でない水資源の有効活用と適切な圃場管理に資するため、重労働と多くの作業時間を要する畦シート設置等を軽減し、生産コストの低減を図るため畦塗機の導入を図る。

4 世代交代、組織の後継者育成に関する方針

【現状と課題】

山田谷中央営農組合の構成員が年々高齢化し、現在の組織体制を維持できなくなる恐れがある

【課題を解決するための対応方針】

・定年帰農者を集落営農組織の担い手として育成するために、青・壮年を対象に休日の農作業や集落行事への参加を促し、農業機械作業の体験などをとおして、後継者としての義務感を持たせる。

・農業機械のオペレーターは、基本的に退職したら担うものという意識を徹底し、かつ一定の年齢に達したら交替するローテーションを確立する。

・最近、数人の３０代の若者の人材が確保されるようになり、組織の内容、運営の在り方についての意識を持たせている。

Ⅱ　農業用機械施設の整備方針
1　機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金　額（円）	導入予定年月	本事業による導入機械に ○
畦塗機	ドラム外形750mm	1台	1,014,876	平成27年3月	○